

香川大学における教員業績評価システムの開発と 評価入力状況可視化の取り組み

松永 貴輝¹⁾, 松木 則夫²⁾, 末廣 紀史³⁾,
油谷 知岐¹⁾, 米谷 雄介^{1),4)}, 八重樫 理人^{1),4)}

- 1) 香川大学 DX 推進研究センター
- 2) 香川大学研究戦略室
- 3) 香川大学情報部情報企画課
- 4) 香川大学創造工学部

matsunaga.takateru@kagawa-u.ac.jp

Development of Management System for Achievements Evaluation and Visualization of Evaluation Progress

Takateru Matsunaga¹⁾, Norio Matsuki²⁾, Norifumi Suehiro³⁾,
Tomoki Aburatani¹⁾, Yusuke Kometani^{1),4)}, Rihito Yaegashi^{1),4)}

- 1) Digital Transformation Research Center, Kagawa University
- 2) Office of Research Strategy, Kagawa University
- 3) Information Planning Division, Information Offices, Kagawa University
- 4) Faculty of Engineering and Design, Kagawa University

概要

香川大学は、教員業績評価の業務において、研究者データベースとの連携機能や業績評価フローの管理機能を有する教員業績評価システムを開発し、2024年度から実運用を開始させた。教員業績評価システムには、業績評価業務に係る被評価者・評価者・事務職員の業務工数を削減する効果が期待される。本論文では、教員業績評価システムの開発と評価入力状況の可視化の取り組みについて述べる。

1 はじめに

香川大学の教員業績評価では、毎年度、被評価者である教員が、自身の研究論文、授業、社会貢献等の業績を、Microsoft Excel 形式や Microsoft Word 形式等の電子ファイルに入力し、活動実績書としてそれを大学に提出していた。活動実績書の記載事項は、学内外の研究者データベースと連携されておらず、被評価者は研究者データベースに記載した事項を再度入力する二度手間があった。さらに、評価者や評価管理担当の事務職員は、提出された膨大な数の活動実績書の管理を行う必要があった。このように、教員業績評価では、被評価者・評価者・事務職員ともに作業負担が大きく、業績評価業務に係る業務工数の削減のため、研究者データベースとの連携機能や業績評価フローの管理機能を有する教員業績評価システムの導入が課題であった。

香川大学では、デジタルトランスフォーメーション (DX) を推進し、業績評価業務の変革につなげるため、教員業績評価システムを開発し、2024年度の教員業績評価において実際に運用を開始させた。本論文では、教員業績評価システムの開発と可視化の取り組みについて述べる。

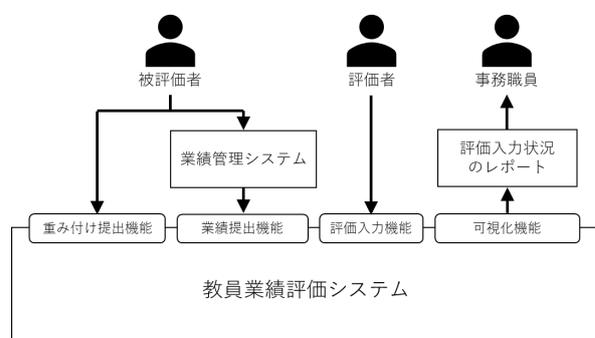


図1 教員業績評価システム全体概要

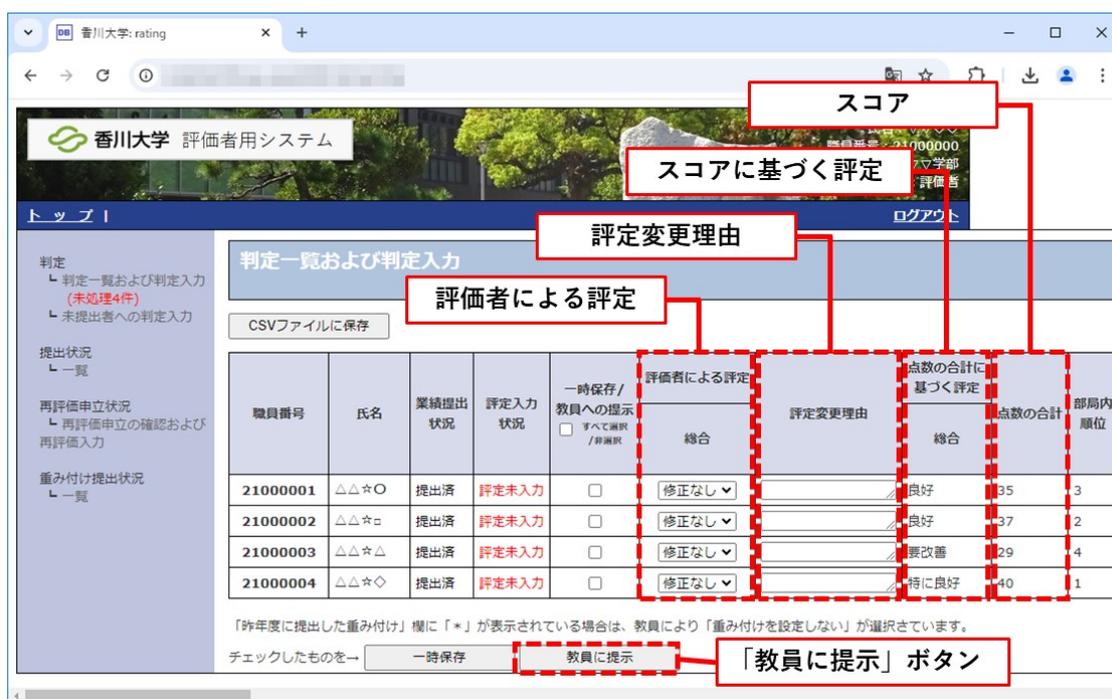


図2 評価入力画面

2 教員業績評価システムの開発

図1は、教員業績評価システムの全体概要を示している。教員業績評価システムは、教員業績評価で使用される重み付けを提出する「重み付け提出機能」、業績管理システムと連携して業績を提出する「業績提出機能」、評価者による評価入力を実現する「評価入力機能」、評価入力状況を可視化する「可視化機能」を有している。

2.1 重み付け提出機能

教員業績評価では、教育、研究、社会貢献、運営、の4領域を対象としており、被評価者は、自身の業務内容を踏まえ、「重み付け提出機能」を利用して各領域の重み付けを入力し、教員業績評価システムに提出する。提出された重み付けは、被評価者の業績の定量的なスコア化に使用される。

2.2 業績提出機能

香川大学では、教員の業績を一元的に管理する業績管理システムを開発し、2023年6月より運用している[1]。「業績提出機能」では、業績管理システムに蓄積された業績データから、自動的に業績評価用のデータが生成され、それが教員業績評価システムに提出される。これにより、業績評価用に被評価者が同じ業績を再度入力する必要はなくなり、業績入力の業務工数削減が可能となる。業

績の提出後、あらかじめ設定された評価項目と評価指数、重み付けの値より被評価者の業績が定量的にスコア化され、そのスコアに基づき3段階の評定が自動算出される。

2.3 評価入力機能

図2は、評価入力画面を示している。提出された業績、スコアに基づく評定等は、評価入力画面に表示され、評価者はこの画面で3段階の評定を入力する。スコアに基づく評定と異なる評定を入力する場合は、評定変更理由を入力する。入力完了後、「教員に提示」ボタンを押すことで、評価結果が被評価者に提示される。被評価者は、評価結果確認画面にて、スコア、スコアに基づく評定、評価者による評定を閲覧することができる。

提出された業績やスコアは、評価入力画面に被評価者毎に一覧表示され、同一画面での評価入力が可能である。これにより、提出された業績や評価入力の管理が容易になり、評価入力に係る評価者の業務工数を削減する効果が期待できる。

2.4 可視化機能

可視化には、Microsoft Power Platform [2]に含まれるPower BIを用いた。図3は、評価入力状況を可視化したレポートを示している。レポートには、評価入力数についての時系列のグラフ、現在までの入力数合計、被評価者毎の一覧等が表示される。レポートは、定期的に自動更新され、インターネット



図3 評価入力状況を可視化したレポート

ット経由でいつでもどこからでもそれを閲覧することができる。可視化により、業績評価の確実な進捗管理が可能になるだけでなく、自動でレポートが作成されることから、評価管理担当の事務職員の業務工数を削減する効果が期待できる。

3 おわりに

本論文では、香川大学で開発した教員業績評価システムの開発と可視化の取り組みについて述べた。今後は、利用者である被評価者・評価者・事務職員のニーズに応えるべく、機能改善や追加機能開発への対応に加え、業績評価業務の変革を目指し、さらなる業務工数の削減や、より有用な可視化手法の検討に取り組んで参りたい。

参考文献

- [1] 松永貴輝, 松木則夫, 末廣紀史, 武田啓之, 藤本藍, 米谷雄介, 八重樫理人: 香川大学における教員業績管理システムの開発と業績データ可視化の取り組み, 大学ICT推進協議会2023年度年次大会論文集, pp.106-110, 2023.
- [2] Microsoft: Microsoft Power Platform, <https://www.microsoft.com/ja-jp/biz/dynamics/power-platform> (2024年10月15日参照)